

古書のたのしみ 令和元年八月（乾）

土屋 博

一「日本外史字引」東京府平民安倍爲任著

（潤屋堂、明治十年刊、四十二丁）

古書價格五百圓也。和綴の愛すべき袖珍版なり。一畫の一、乙、二畫の二、丁、七、刀、八、人、又、入、九、力、ヒ、十、ト、了、乃より、自二十五畫至三十六畫の麤（そ）、麤（げん）など迄。一冊の本により漢字を學ばしむる發想、今日に於いては無し。

二「日本外史字引」京都府平民松山喜輔編輯

（三書堂、明治十年刊、四十丁、銅鑄工福富正水）

古書價格二百圓也。これも和綴の袖珍版なり。銅鑄工の名前もあることに注目。三十畫は鬱（うつ）、さかんにしげる）、彎（らん）。二十八畫は蠶（さん、かいこ）。二十七畫は驥（じやう、をどりあがる）、驢（くわん、よろこぶ）など。

三「鼈頭 日本外史獨學大全 二、三、四」太田成之編輯

（明治十二年版權免許、同十六年出版、七一丁、四二丁、八〇丁）

古書價格二千圓也。編輯人は愛智縣士族。卷一欠くれども保存状態格別に良し。特に卷四「日本外史古戰場之圖」は、青赤の版畫印刷も麗しく、永久に保存するに足る。大阪夏の陣、冬の陣の陣形など、細かなる字なれど興味盡きず。

四「日本外史字解大全 下」東京府平民渡邊資次郎編輯

（東崖堂、明治十八年刊、定價金五拾錢、四十二丁）

古書價格五百圓也。同じく全頁地圖なり。延喜以前内裏圖、將門横領坂東八州概圖、越中國栗柯嶺源平合戦圖より、大坂夏陣圖、肥前國天草都富岡城攻圖迄。時間を掛け眺むる必要あり。

五「皇朝大家人物論 下卷」遠藤梅坡編、森三樹校

（春陽堂和田篤太郎、明治十八年刊、五十七丁）

古書價格百圓也。和綴、掌中版。頼山陽及び安積良齋の秀吉論、藤森弘菴及び大槻盤溪の征韓論、菊池三溪の眞田幸村論、安積澹泊及び中井竹山の黒田如水論、安積澹泊の細川忠興論、前田利家論、柴野栗山の本多正信論、菊池三溪の明智光秀論、大槻盤溪の大谷吉隆論、菊池三溪の織田信長論、細川幽齋論、鹽谷宕陰の關原役論、室鳩巢の漢祖神祖比較論、青山延光及び大槻盤溪の加藤清正論、中井竹山の鎖國論、菊池三溪の大久保忠隣論、中井積善の板倉勝重論、青山延光の加藤嘉明論、伊達正宗論、菊池三溪及び森田思軒の耶蘇教亂論、佐藤一斎の家光三傳論、藤田東湖及び安積澹泊の水戸光圀論、太宰春臺、龜田鵬齋及び藤田東湖の赤穂浪士論、蒲生君平の新井白石論、菊池三溪の大岡忠相論、蒲生君平の徂徠論、高雲外の大鹽平八郎論、鹽谷宕陰の高山正之論、藤森弘菴及び川田甕江の蒲生君平論、岡千仞の水戸烈公論、吉田松陰佐久間象山論、吉田松陰論、芳野金陵の久坂通武論、阿部伊勢守論、大政復古

論を収録す。

當時の人々の教養レベルの高さを示す好著と覺ゆ。

六「少年文學第廿貳編 賴山陽」青軒居士述

(東京博文館藏版、明治二十六年刊、定價金拾貳錢、一四四頁)

古書價格千五百圓也。眞面目なる少年の讀みし書籍ならん。「孝經、小學、近思錄など春水の教ふるまゝ久太郎は愈々讀書面白く晝夜を分たぬ勉強は只さへ壯健ならぬ久太郎何時しか眼疾を煩らひ出して十一二の頃には眼氣甚だ悪かりければ春水痛く心配し、嚴しく讀書を禁じける。」と。

七「関東の山水」大町桂月著

(博文館、明治四十二年刊、定價金壹圓、五〇四頁)

古書價格二千圓也。冒頭に曰く、「日本の本島は龍の躍るが如く、其上の北海道はあかえの如く、南に延びて九州となり琉球となり、臺灣も版圖に入り、北は樺太の南半も加はり、寒帯もあれば熱帯もあり大部分は温帯に屬す。四周に海あり山は多くは火山也。風光の美夙に世界の樂園と稱せらる。古人の所謂蓬萊は我國を措いて外にあるべしとも思はれず。松島、宮島、天の橋立を日本三景とはいつの世界よりか言ひ始めけむ。須磨、明石、近江八景などの之に次いで有名なるを見ても、古の人は山は翠黛の如く水は鏡の如き平穩にして明媚なる景色を愛せしやう也」と。また曰く、「われ我國の山水を探りつくさむと思ふこと久し。されど一時にまとめて探りうべくもあらず。順を遂はむと思ひたち茲に先づ關東の山水を探れり」と。紀行文を得意とする桂月の面目躍如たり。

八「縮刷 平家物語 全」

(集文館、大正七年九版、定價金壹圓、三四五頁十三三六頁十二三三二頁)

古書價格五百圓也。文庫本より一回り小さく、携帯には便利かと思料。

九「繪本日本外史第五冊」賴山陽原著、大町桂月譯述

(博文館、大正七年刊、大正九年改正定價金壹圓廿錢、二一〇頁)

古書價格三百圓也。卷八足利氏中、卷九足利氏下、卷十後北條氏を収録す。カラーの口繪は、義教富士を眺望す、持氏の子元服す、政元義植を捕へて幽閉す、長氏同志と東國に向ふ、の四枚のみ。文章はすべて口語譯なり。

(令和元年七月二十二日受附)